

玄海原子力防災訓練計画事前説明に係る面談（5週間前）時の確認事項

〔「指標9：緊急時対応組織の能力の向上」
「指標11：訓練結果の自己評価・分析」〕

2023年度評価指標に基づき、玄海原子力発電所防災訓練のうち原子力事業所災害対策支援拠点（以下、「LSB*」という。）設置運営訓練を要素訓練として実施する。訓練概要及び指標9、11に係る対応については以下のとおり。※LSB（後方支援拠点）：Logistic Support Base

訓練概要

1. 日 時 2023年12月13日（水） 13：10～15：40（予定）
2. 対応場所 九州電力：旧唐津発電所用地（後方支援拠点）
本店（原子力施設事態即応センター）
3. 参加機関 九州電力、原子力規制庁（調整中）、陸上自衛隊、他原子力事業者（訓練評価）、九州電力送配電、九電産業、アトックス
4. 目 的 中期計画及び年度計画にて策定した訓練実施計画に基づき訓練を実施することで、緊急時の活動におけるLSB機能の実効性向上及び訓練習熟による対応力向上を図る。

シナリオ情報を含むため非開示

6. 形 式 シナリオ一部提示型（当社以外は予め対応内容を付与）
7. 進 行 事務局（コントローラ）から条件付与
8. 体制・評価体制
<体制（LSBの活動に係る対応者で実施）>
【後方支援拠点（旧唐津発電所用地）】
 - ・社内：総括班、放射線管理班、支援班、医療班
 - ・社外：支援組織（原子力規制庁（調整中）、陸上自衛隊）
関係会社（九州電力送配電、九電産業、アトックス）【本店即応センター】
 - ・社内：総括班、支援班<評価体制>
 - 社内：2名（LSB、本店：各1名）
 - 社外：他原子力事業者4社（LSB：各社1名）

指標9、11に係る説明

別紙のとおり。

以 上

No	指標	基準			評価対象の考え方など
		A	B	C	
9-1 【P】	緊急時対応組織の実効性向上に係る中期計画 ①目標設定 ②達成基準 ③継続的改善	<p>実発災時に予め原子力事業者防災業務計画に定められた活動が網羅的に実施されるよう、訓練の中期計画及び年度計画が策定され、計画的に訓練に参加する組織の範囲、目的及び実動訓練の内容等が選定されているか確認する。</p> <p>具体的には、中期計画により、緊急時対応組織の実効性を向上するための仕組みが構築されていることについて、例えば以下を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力事業者防災業務計画、保安規定及び核物質防護規定（以下「防災業務計画等」という。）に予め定められた全ての緊急時対応組織について、3～5年後の中期的な目標が設定されているか。 中期的な目標について、あるべき姿と現状のギャップを踏まえ、あるべき姿と現状のギャップを埋めるためにやるべきこと（以下「課題」という。）の困難さを考慮し、適度な難易度が設定されているか。また、中期的な目標の設定において、社外の組織からの意見や提言などを積極的に取り入れているか。（①目標設定に係る確認） 課題について、取り組む事項が具体化されているか、また、この取り組みによりギャップが解決されることを訓練等で検証するための判断基準等が明確であるか（②達成基準に係る確認） 訓練等を通じて得られたギャップ（社外の組織からの意見や提言を含む）が埋もれることなく、原因分析、課題の整理、改善に向けた取り組みが確実に講じられるなど、継続的改善に係る仕組みが構築されているか（③継続的改善に係る確認）。 <p>なお、中期計画の期間を通じて、緊急時対応組織の実効性の向上に取り組むことから、必ずしも、全ての緊急時対応組織について、各年度での適度な難易度の設定や実動訓練を伴う訓練の実施計画を求めるものではない。</p> <p>また、単一の中期計画において、すべての緊急時対応組織の実動訓練が実施出来ない場合は、当該中期計画以降に実施する対象が明確になっていることを確認する。</p> <p>「緊急時対応組織」とは、原子力に係る緊急時対応のため、原子力事業者防災業務計画、保安規定及び核物質防護規定に定める活動に必要な事業者の組織をいう。「適度な難易度」とは、達成の可能性が50%程度のものをいう。</p> <p>【注意事項】 本指標についてはあくまでも緊急時対応組織の実効性の向上の観点から確認することとする。</p>			
対応	<p>①目標設定 ②達成基準</p> <p>後方支援拠点（以下、「LSB」という。）訓練に係る至近3か年の訓練実績や抽出された課題（社外組織からの意見による課題含む）や原子力事業者防災業務計画のあらかじめ定められた緊急時対応組織を踏まえ、更なる能力向上の可能性につながる項目を検討し、2023～2025年度における具体的な取組事項・達成水準を中期計画にて設定【添付1：原子力事業所災害対策支援拠点に係るの中期計画（2023～2025年度）】</p> <p>○中期的な目標：オンサイト支援に係るLSBの更なる実効性及び対応能力向上を図るため、昨年度までに連携した支援組織（原子力規制庁、自衛隊）に加え、新たな支援組織（警（中期の取組事項）察、消防等）との連携を検討するとともに、実発災を想定し、これまでよりLSBの運営規模を拡大した訓練を段階的に行う。</p> <p>○達成水準：様々な支援組織との連携に関する検討や訓練を行うことで、実発災時の円滑なLSB運営が行えるよう改善課題や確認された強みや工夫した点をもとに良好事例が抽出されていること。また、実発災を想定し、LSBの運営規模を拡大した訓練を段階的に実施していくことで、確実な対応能力の向上が図られていること。</p> <p>③継続的改善</p> <p>社外評価者を含む評価体制を構築し、課題や良好事例を抽出・分析し、結果については、CAPに登録し組織内で共有する。また、組織外の緊急時対応組織に対しては、平時からの原子力防災に係る会議、打合せ等の場を通じて共有する。</p> <p>なお、2026年度以降に取り組むべき領域については、中期計画（2023～2025年度）にて設定している。ただし、2023～2025年度の訓練実績を踏まえ、次期中期計画期間中の取組事項はあらかじめ設定する。</p>				

No	指標	基準			評価対象の考え方など
		A	B	C	
9-2 【P】	緊急時対応組織の実効性向上に係る年度計画 ①目標設定 ②達成基準 ③継続的改善	(効果的な向上) 緊急時対応組織の実効性の向上の観点から、年度計画について、以下の項目を全て満足する。 ①適度な難易度で設定された中期計画の目標に基づき、年度の目標が適切に設定されている。 ②年度の目標に対する達成基準が具体的、かつ明確に設定されている。 ③継続的改善に係る仕組みが効果的に機能している。	(限定的な向上) 緊急時対応組織の実効性の向上の観点から、年度計画について、以下の項目が1つ以上ある。 ①容易な難易度で設定された中期計画の目標に基づき、年度の目標が設定されている。 ②年度の目標に対する達成基準の一部が具体的でない、あるいは、不明確である。 ③継続的改善に係る仕組みが十分に機能していない。	(A, B以外) 緊急時対応組織の実効性の維持が目標となっている等。	年度計画は、中期計画に基づき、訓練に参加する緊急時対応組織の範囲、目標、実動訓練の内容等が選定されていることについて、例えば以下を確認する。 ・中期計画に基づき、緊急時対応組織の能力の維持及び能力の向上に資する目標が設定されているか(①目標設定に係る確認)。 ・上記目標の達成基準が具体的に設定されているか確認する(②達成基準に係る確認)。 ・継続的改善に係る仕組みについて、社外の組織からの意見や提言の活用など、改善の余地がないか(③継続的改善に係る確認)。 また、毎年度全ての緊急時対応組織の実動訓練が実施できない場合は、中期計画において、各緊急時対応組織の重要性等を考慮して適切に実施頻度が設定されていることを確認する。
対応	①目的 中期計画を踏まえ策定した年度計画に基づき訓練を実施することで、緊急時の活動におけるLSB機能の実効性向上及び訓練習熟による対応力向上を図る。【添付2：2023年度 後方支援拠点訓練について】【添付3：2023年度 玄海原子力発電所防災訓練に係る後方支援拠点訓練(LSB運営・支援組織との連携)の実施について】				
	①目標の設定、②達成基準	目標設定	達成基準	難易度	難易度の考え方
シナリオ情報を含むため非開示					

③継続的改善に係る仕組み

- ・訓練評価者（他原子力事業者、当社社員（自己評価））及び訓練参加者（原子力規制庁（調整中）、陸上自衛隊、当社社員）からの良好事例や気づき事項を抽出し、CAPにより管理する。また、組織外の緊急時対応組織に対しては、平時からの原子力防災に係る会議、打合せ等の場を通じて共有する。

④実働範囲

【後方支援拠点（旧唐津発電所用地）】

<社内>

- 総括班(16名) : 原子力発電本部（安全性向上G、システム統括G、原子燃料サイクルG、原子燃料技術G、廃止措置管理G）、土木建築本部、情報通信本部
- 放射線管理班(6名) : 原子力発電本部（放射線安全G、原子燃料サイクルG、廃棄物運用対策G）、非発電所[川内原子力発電所]（調整中）
- 支援班(4名) : 業務本部（ロジスティクスG）
- 医療班(3名) : 人材活性化本部（健康推進G）、原子力発電本部（原子燃料バックエンドG）

<社外>

- 支援組織（調整中） : 原子力規制庁（調整中）、陸上自衛隊
- 関係協力会社（調整中） : 九州電力送配電株式会社、九電産業株式会社、株式会社アトックス

【即応センター】

<社内>

- 総括班、支援班（調整中） : 原子力発電本部、業務本部

No	指標	基準			評価対象の考え方など
		A	B	C	
9-3 【P】	緊急時対応組織の実動訓練	(フル実動訓練) 中期計画に基づく当該年度計画で実動とした緊急時対応組織の全てが実動する計画である。	(一部実動訓練) 中期計画に基づく当該年度計画で実動とした緊急時対応組織のうち一部が実動する計画である。	(A, B以外) 緊急時対応組織の実動訓練を実施しない計画など。	<p>中期計画に基づき、実動訓練の参加組織あるいは参加者は、実発災時の活動を想定し、広範囲かつ適切に設定されているか確認する。</p> <p>「広範囲かつ適切に」とは、緊急時対応組織について、中期計画及び年度計画で設定した目標のため、必要な組織が選定され、各組織の参加する範囲及び活動内容が設定されていることをいう。</p> <p>「全てが実動する計画である」の確認に当たり、社外組織については、この限りではない。</p> <p>【緊急時対応組織の実動訓練の例】</p> <p>①原子力事業所災害対策支援拠点における自社の活動 ②緊急事態応急対策等拠点施設（オフサイトセンター）における自社の活動 ③他の原子力事業所（自社の原子力事業所を含む。）との連携に係る自社の活動 ④原子力緊急事態支援組織との連携に係る自社の活動 ⑤実動省庁（防衛省・自衛隊、警察、消防）との連携に係る自社の活動 ⑥その他、必要な社内外組織との連携に係る自社の活動</p> <p>実動訓練は、実発災時の活動を想定し、訓練に参加する組織及び参加者とその規模、模擬とする部分等が適切に設定され、訓練全体として、現実性（リアリティ）が確保されていることを確認する。なお、実動省庁との連携等、実発災時の活動の想定が困難なものについては、訓練シナリオ上の仮定が必要になることから、この限りではない。</p>

○参加者

		参加者	対応場所	主な役割
①	社内	後方支援拠点の要員 (本店社員、非発災発電所(川内原子力発電所)社員)	後方支援拠点(旧唐津発電所用地)	シナリオ情報を含むため非開示
②		即応センターの要員	即応センター(本店)	
③	社外	陸上自衛隊	後方支援拠点(旧唐津発電所用地)	
		原子力規制庁(調整中)		
		九州電力送配電株式会社		
④		九電産業株式会社		
	株式会社アトックス			

○目標に対する必要な対応者

対応

シナリオ情報を含むため非開示

シナリオ情報を含むため非開示

図. 今回の実働範囲(赤枠箇所)

No	指標	基準			評価対象の考え方など			
		A	B	C				
9-4 【P】	緊急時対応組織の実効性向上に係るより現実的な実動を伴う訓練設定	(臨機応変な対応能力の向上) より現実的な実動を伴うシナリオや状況設定となっており、緊急時対応組織の活動の全てがシナリオ非提示型訓練となっている。	(型通りの対応能力の維持) より現実的な実動を伴うシナリオや状況設定となっており、緊急時対応組織の活動の全て又は一部がシナリオ提示型訓練となっている。	(A, B以外) 当該年度の目標とは関係ないシナリオが設定されている等。	<p>中期計画や年度計画に示された目標やねらいに応じ、発災規模を適切に設定し、その範囲内での活動を想定した上で、より現実的が確保された実動を伴うシナリオや状況が設定されているか確認する。</p> <p>ここで、「現実的なシナリオ」には連携する組織間において、上位組織等の意思決定プロセスも含むこととする。</p> <p>ただし、時間的な制約などにより、現実的な連携シナリオが設定できない場合は、部分的な実動訓練を要素訓練として、実施しても良い。</p> <p>なお、シナリオを予見できる情報（発災前の施設運転状況、地震等の起因事象等といった訓練の前提条件は含まない）が事前演習等も含め全く提示されていない場合をシナリオ非提示とする。</p> <p>例えば、手順書、設備、要員等について、柔軟な活用を期待する状況設定や現場等での指揮者の臨機応変な判断を伴うシナリオで、かつ、シナリオ非提示型訓練の場合、「臨機応変な対応能力の向上」に該当する。</p>			
対応	<p>○より現実的なシナリオ L S Bの活躍が期待される時間軸において、本店即応センターと連携した運営訓練をシナリオ一部提示型訓練として実施。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;">シナリオ情報を含むため非開示</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%; text-align: center;">シナリオの設定</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">ねらい</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="height: 300px; vertical-align: middle; text-align: center;">シナリオ情報を含むため非開示</td> </tr> </table>				シナリオの設定	ねらい	シナリオ情報を含むため非開示	
シナリオの設定	ねらい							
シナリオ情報を含むため非開示								

No	指標	基準			評価対象の考え方など
		A	B	C	
9-5 【D】 【C】	緊急時対応組織の実効性向上に係る支援活動の実施	(すべて実施) 全て、当初の計画通りに活動が実施された。	(概ね実施) 概ね、当初の計画通りに活動が実施された。	(A, B以外) 当初の計画通りに活動が実施されなかった。 ・コントローラの介入などにより、訓練の中断を要する場合等	訓練時に設定した発災規模の範囲で緊急時対応組織の活動を想定し、訓練が広範囲にわたる組織間において適切な連携の下、計画通りに実施されたか確認する。 ・評価のため、行動内容（計画に実施できたこと、できなかったこと及び新たに見つかった問題）の記録がとられていることを確認する。 ここで、「適切な連携」とは、予め定められた指揮命令系統に基づき、組織内及び組織間が予め定められた手順通りの対応が出来ることをいう。また、手順を超える対応については、期待する行動や連携ができることをいう。 本指標については、事業者防災訓練（総合訓練）のみならず、要素訓練を含めることができる。複数回の訓練が実施される場合の評価は、各訓練が年度計画に設定された目標の達成基準を全て満たしていれば、「すべて実施」に該当する。したがって、指標9-2の確認段階において達成基準が、例えば定量的に設定されるなど明確に示されているか確認する。
対応	○訓練前に計画した目標及び達成基準を網羅した訓練の評価チェックシートを用いて、訓練評価者（他原子力事業者、当社社員（自己評価））にて評価を実施する。また、訓練後に訓練参加者（原子力規制庁（調整中）、陸上自衛隊、当社）と意見交換（振り返り）を実施し、良好事例や気づき事項の抽出を行う。また、訓練状況を録画し、記録として残す。【添付4：（案）訓練評価チェックシート】				
	（目標に対する達成状況）※訓練実施後に記載				
	目標設定	達成基準		評価	達成状況
				他電力	自己
	シナリオ情報を含むため非開示		評価チェックシート等を基に、 訓練実施後に記載		
	【凡例：評価】 ○：訓練評価者にて検証内容が確認されたもの / -：該当なし				

No	指標	基準			評価対象の考え方など
		A	B	C	
11 【C】 【A】	訓練結果の自己評価・分析	(継続的な向上) PDCAを回し、1つ上のレベルに到達し、これを繰り返すことで継続的な向上に繋がっている(スパイラルアップが出来ている)。	(現状の維持) PDCAを回しているものの、現在のレベルを維持している。 ・検証・評価ができていない ・計画で設定した目標と比較し、目標に近づいたのか評価していない ・改善点が見つからない ・改善案が適切ではない ・次のサイクルで目標、課題を設定せずにPDCAサイクルを回す等	(A、B以外) PDCAが回っていない。 ・同様の問題が毎年繰り返し確認されている等	<p>訓練実施及び訓練結果の自己評価において、【C】適切に検証・評価がされ、【A】評価にしたがって改善すべき事項が抽出され、具体的な対策の方針を定めているか確認する。防災訓練実施結果報告書等により確認する。</p> <p>①計画された目標の達成基準に基づき適切に評価が行われたか ②改善すべき事項の抽出がされているか (目標未達の成果) 目標を下回る成果や新たに見つかった問題について、原因の分析がされているか (目標以上の成果) 目標を上回る成果や継続すべき良好な行動について、原因の分析がされているか ③改善すべき事項について、具体的な対策が図られている、あるいは、改善に取り組んでいるか ②については、いわゆる「なぜなぜ分析」等が行われ原因を深掘りして分析されていることを確認する。</p> <p>なお、訓練実施前に指標1で確認した情報フローについての自己評価、指標9で確認する緊急時対応組織の能力の向上に係る自己評価や改善状況についても、この指標で確認する。</p> <p>本指標に基づく評価に当たり、悪い点だけでなく、緊急時対応能力の向上に繋げる観点で、良い点についても抽出・分析が行われ、必要に応じて組織間で共有されるかなど確認する。</p>
対応		<p>①計画された目標の達成基準に基づき適切に評価が行われたか ②改善すべき事項の抽出がされているか (目標未達の成果) 目標を下回る成果や新たに見つかった問題について、原因の分析がされているか (目標以上の成果) 目標を上回る成果や継続すべき良好な行動について、原因の分析がされているか ⇒訓練前に計画した目標及び達成基準を網羅した訓練の評価チェックシートを用いて、訓練評価者(他原子力事業者、当社社員(自己評価))にて評価を実施する。また、訓練後に訓練参加者(原子力規制庁(調整中)、陸上自衛隊、当社社員)と意見交換(振り返り)を実施し、良好事例や気づき事項の抽出を行う。</p> <p>③改善すべき事項について、具体的な対策が図られている、あるいは、改善に取り組んでいるか ②については、いわゆる「なぜなぜ分析」等が行われ原因を深掘りして分析されていることを確認する。 ⇒抽出した気づき事項について、関係者で調整し対応方法を策定する。</p> <p>なお、訓練実施前に指標1で確認した情報フローについての自己評価、指標9で確認する緊急時対応組織の能力の向上に係る自己評価や改善状況についても、この指標で確認する。 ⇒今回の訓練の対応状況を踏まえ、指標1の情報フローへの反映を検討する。</p> <p>本指標に基づく評価に当たり、悪い点だけでなく、緊急時対応能力の向上に繋げる観点で、良い点についても抽出・分析が行われ、必要に応じて組織間で共有されるかなど確認する。 ⇒課題や良好事例の抽出・分析結果については、CAPに登録し組織内で共有する。また、組織外の陸上自衛隊に対しては、平時からの原子力防災に係る会議等の場を通じて共有する。</p>			

中期計画試行[2]のうち、「原子力事業所災害対策支援拠点の設置・運営」について

緊急時対応組織に係る訓練等の中期計画の範囲設定シート（本店対策本部）（案）

活動主体	No.	活動項目	活動内容	活動遂行のために協力・連携する組織連携する組織	活動の提供先
本店対策本部	H1	本店対策本部の運営	…	…	…
	H2	原子力事業所災害対策支援拠点の設置・運営	<p>以下、原子力事業者防災業務計画に基づく、原子力事業所災害対策支援拠点の設置・運営</p> <p>・第4章 第2節「13 原子力防災要員の派遣等」 (3) 原子力事業所災害対策支援拠点への派遣 a 原子力事業所災害対策支援拠点における業務に関する事項 (a) 発電所への物資の輸送 (b) 輸送に付随する放射線管理、入退域管理（放射線管理教育を含む。） (c) 拠点運営、関係機関との調整・連絡 等 なお、放射線管理等の業務については、警戒区域の設定範囲により柔軟に対応することが必要なため、あらかじめ設定することが困難なことから、資機材を確保し、状況に応じ柔軟に対応する。</p>	原子力規制委員会 原子力緊急事態支援組織 プラントメーカー 建設業者等 実動組織を含む関係機関 協力会社	—
	H3	他事業者支援組織との協定に基づく連携	…	…	…
	H4	社内他部門との支援要請連携	…	…	…
	H5	原子力災害医療	…	…	…
	H6	住民対応支援 避難所・避難退域時検査場所への要請派遣	…	…	…
	H7	緊急事態応急対策等拠点施設での外部組織との情報連携活動	…	…	…
	H8	自治体対策本部での情報連携活動	…	…	…
	H9	広報活動	…	…	…
	H10	核物質防護事案を起因とした警戒事象等への対応（核物質防護組織との連携活動）	…	…	…
	H11	核物質防護事案への対応	…	…	…

①2020年～2022年の中期計画における実施実績

【習熟訓練(物資輸送、放射線管理、拠点運営)】

○LSB候補地において、SE事象発生直後の現地招集・設営及び運営訓練を実施(3ヵ年：計7回、延べ391名)

- ・即応センターとの連携（通信確認、指示等）、社内非発災発電所からの応援者(1名)に対する入退域管理、教育
- ・LSBへの資機材搬入、発電所への輸送準備、発災時の連携が想定される陸上自衛隊駐屯地での人・車両の汚染検査・除染実施等

【新規訓練(支援組織との連携訓練(2022年度以降新規実施))】

○発電所への物資輸送に関する支援組織との連携訓練を実施(LSBにおける連携は2022年度初実施、参加人数：60名)

- ・支援組織(原子力規制庁、陸上自衛隊)との発電所への物資輸送に関する連携訓練を実施
- ・陸上自衛隊と合同での除染訓練、海上自衛隊輸送艦への輸送トラック搭載訓練を実施

②訓練評価結果、気づき事項

- ・実発災を想定した訓練シナリオ（シナリオの充実）
- ・相手の立場に立った情報提供（想定被ばく量の人体への影響等）
- ・支援要請時の最新情報の提供（最新の現場写真等）

③更なる能力向上の可能性（評価の段階：整備された基盤を柔軟に活用し対応する能力を育成する段階）

- ・運営規模の段階的拡大：実発災を想定した運営規模の段階的拡大
- ・支援組織との連携拡充：支援組織との連携について、速やかなオンサイト支援を実施するため、組織・連携項目を調整の上、順次拡大
- ・課題への対応：昨年度訓練で課題となった項目について、必要な対応策及びスケジュールを検討し2023年度以降の訓練にて検証実施

取組事項・達成水準設定シート（案）

④2023年～2025年の中期計画における具体的な取組事項・達成水準

【中期の取組事項】

- ・昨年度までに連携した支援組織（原子力規制庁、陸上自衛隊）に加え、新たな支援組織（警察、消防等）との連携を検討する。【期間内で実施】
- ・実発災を想定し、これまでより LSB の運営規模を拡大した訓練を段階的に行う。【期間内で実施】

【達成水準】

- ・様々な支援組織との連携に関する検討や訓練を行うことで、実発災時の円滑な LSB 運営が行えるよう改善課題や確認された強みや工夫した点をもとに良好事例を抽出する。【期間内で実施】
- ・実発災を想定し、LSB の運営規模を拡大した訓練を段階的に実施していくことで、確実な対応能力の向上を図る。【期間内で実施】

⑤2026年以降に取り組むべき改善領域

○支援組織との連携訓練

- ・2025年度までに連携訓練の実績のない支援組織との連携訓練の実施

○運営規模の拡大

- ・実発災を想定した運営規模における訓練の実施
- ・LSB 設置（要員の召集含む）、運営、連携及び解散までの一連の訓練実施
- ・LSB 設置後の放射性物質飛来等による移転
- ・後方支援対応の中長期化時の対応（プレハブ建屋設置等）

参考：能力向上可能性抽出シートに記載すべき内容（中期計画作成・運用要領（案）より）

① 当該の中期計画の前の中期に実施した数年分の活動実績を整理する。活動実績には、訓練の実施の他、マニュアル整備や資機材整備等の対応も含めて記載する。また、訓練の内容については、図上演習が情報連携の訓練が実動訓練かを記載する他、活動項目の性質に応じて、訓練の目的（検証または習熟）、訓練の内容（訓練シナリオ、社内外の連携した組織の範囲等）も適宜記載し、実施した訓練によってどのような実績を得たかがわかるように記載する。

② 自社評価、N R A 評価、事業者間ピアレビュー、第三者によるピアレビュー等で得られた訓練評価・気づき事項から主たるものを記載する。ここで主たるものとは、当該の活動項目が担う機能を踏まえて、改善領域の抽出の検討に必要と思われるものを記載すること。

③ 活動項目ごとに整理した（a）の訓練実績、（b）の訓練評価・気づき事項から、当該の活動項目が現状どのような段階であるかを表 1 に示す段階のいずれに当たるかを評価する。（a）の訓練実績からは、「訓練自体または実動を伴う訓練を実施していない範囲」や「緊急時に関係する組織が参加していない範囲」等を、（b）の訓練評価・気づき事項からは、「実施した訓練を踏まえ現状の運用（マニュアル等）の改善すべき範囲」等を着目して改善領域を抽出する。改善領域は、現状の段階を意識し総括して記載する。

緊急時対応組織に係る訓練等の中期計画（本店対策本部）（案）

組織全体の中期的な目標
<ul style="list-style-type: none"> 原子力事業所災害対策支援拠点の設置・運営について、当該中期計画期間中での実動組織（自衛隊、警察、消防等）との連携訓練に向けた関係性構築やマニュアル整備等に注力する。

活動主体	No.	活動項目	中期の取組事項・達成水準	評価者 (実績)	訓練実施計画		
					2023年	2024年	2025年
本店 対策 本部	1	本店対策本部の本部運営	内容	● (xxx)	● (xxx)	● (xxx)
	2	原子力事業所災害対策支援拠点の設置・運営	<p>【中期の取組事項】 オンサイト支援に係る LSB の更なる実効性及び対応能力向上を図るため、昨年度までに連携した支援組織（原子力規制庁、陸上自衛隊）に加え、新たな支援組織（警察、消防等）との連携を検討するとともに、実発災を想定し、これまでより LSB の運営規模を拡大した訓練を段階的に行う。</p> <p>【達成水準】 様々な支援組織との連携に関する検討や訓練を行うことで、実発災時の円滑な LSB 運営が行えるよう改善課題や確認された強みや工夫した点をもとに良好事例が抽出されていること。また、実発災を想定し、LSB の運営規模を拡大した訓練を段階的に実施していくことで、確実な対応能力の向上が図られていること。</p>	内容	● 訓練方法： ・LSB設置運営訓練 ・新たな支援組織との意見交換 目的： 習熟、関係構築、課題抽出 内容： ○LSB運営訓練	● 訓練方法： ・LSB設置運営訓練 目的： 習熟、課題抽出 内容： ○LSB運営訓練	● 訓練方法： ・LSB設置運営訓練 ・新たな支援組織との意見交換 目的： 習熟、関係構築、課題抽出 内容： ○LSB運営訓練
				評価者 (実績)	訓練後記載	訓練後記載	訓練後記載

【凡例】

- ：訓練の実施【指標に基づく評価を行う】
- ：訓練の実施【指標以外に基づく評価を行う】
- －：訓練以外の活動の実施

個人情報のため非開示

20
原

【添付2】

2023年度 後方支援拠点訓練について

2023年度の後方支援拠点（以下、「LSB」という。）訓練について、訓練あり方検討を踏まえ試行的に策定した中期計画を踏まえ、以下のとおり計画する。（※LSB：Logistic Support Base）

1 目的

- 原子力災害時において、LSB機能が有効的に発揮できるよう以下の項目を踏まえた訓練を計画。
 - (1) 後方支援拠点の中期計画(2023～2025年度)における2023年度実施内容の織り込み
 - (2) 継続した訓練の実施による習熟度向上

2 2023年度実施項目

- (1) 中期計画に基づく重点実施項目

シナリオ情報を含むため非開示

- (2) 継続実施項目

シナリオ情報を含むため非開示

3 2023年度訓練計画

- 重点実施項目と継続実施項目を踏まえ、今年度の訓練を以下の通り計画する。

区分	実施項目	訓練内容	実施時期 (案)	実施場所 (案)	
玄海	社内 (要素)	A、B、C、 D、E、F	LSB設置・運営 支援組織との連携	2023.12.13	旧唐津発電所用地
	社内	D	本店即応セクターとの連携	非公開情報のため非開示	本店会議室
	非公開情報のため非開示				本店会議室
川内	社内	D	本店即応セクターとの連携	非公開情報のため非開示	本店会議室
	自治体	B、C、G	ヘリによる資機材輸送※2	2024.2.9※2	宮里ヘリポート※2
	自治体	A、C、 D、E	LSB設置・運営	(鹿児島)2024.2.10	いちき串木野市荒川用地 (新たなLSB候補地)
陸上自衛隊との連携		B、F	車両除染対応の習熟 自衛隊による評価	玄海社内訓練(要素) と同一日	旧唐津発電所用地

<参考：習熟度向上の観点から既に実施した訓練項目>

区分	実施項目	訓練内容	実施日	実施場所	
玄海	自治体	D	本店即応セクターとの連携	(佐賀・福岡)2023.10.14	本店会議室
海上自衛隊との連携		G	海上輸送艦への搭載	2023.5.26	中央ふ頭(福岡市)
事前訓練	G	ヘリコプターへの資機材積込	2023.10.26	奈多ヘリポート	
	H	資機材取扱方法の確認	2023.9.11	福岡資材センター	

※1 「重点実施項目 B(新たな支援組織との連携に向けた関係の構築)」については、原子力災害対策地域連絡会議等の場を通じて適宜実施する。

※2 現在検討中の項目であり、今後内容が変更となる可能性有り

以上

2023年度 玄海原子力発電所防災訓練に係る後方支援拠点訓練(LSB運営・支援組織との連携)の実施について(伺い)

訓練のあり方検討を踏まえ試行的に策定した後方支援拠点の中期計画及び年度計画に基づき、玄海原子力発電所の後方支援拠点(以下、「 LSB[※] 」という。)訓練を以下のとおり実施する。なお、本訓練は、年度計画における重点実施項目の確認として、 LSB本部運営に重点を置いた訓練とし、総合訓練とは別日で実施することとし、即応センターの対応は LSBと連携する機能のみによる連携訓練とする。 ※Logistics Support Base

1 目的

年度計画にて策定した訓練実施計画に基づき訓練を実施することで、緊急時の活動における LSB機能の実効性向上及び訓練習熟による対応力向上を図る。

2 訓練概要

日時 (予定)	2023年 12月13日(水) ① 9:00 ~ 12:00(自衛隊と合同での除染訓練) ② 13:10 ~ 15:40(後方支援拠点運営・連携訓練)
場所	旧唐津発電所用地 (佐賀県唐津市)
体制 (予定)	<p>【後方支援拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総括班(16名) <ul style="list-style-type: none"> ： 原子力発電本部(安全性向上G、システム統括G、原子燃料サイクルG、原子燃料技術G、廃止措置管理G)、土木建築本部、情報通信本部 ○ 放射線管理班(本店6名+非発災発電所[※]) <ul style="list-style-type: none"> ： 原子力発電本部(放射線安全G、原子燃料サイクルG、廃棄物運用対策G) ※非発災発電所(川内原子力発電所)からの参加者(調整中) ○ 支援班(4名)：業務本部ロジスティクスG ○ 医療班(3名)：人材活性化本部健康推進G、原子力発電本部原子燃料バックエンドG ○ 支援組織：原子力規制庁(調整中)、陸上自衛隊 ○ 関係会社：九電送配電、九電産業、アトックス ○ 訓練評価(4名)：他電力事業者(調整中) <p>【即応センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総括班、支援班(人数調整中)：原子力発電本部、業務本部 <p>【訓練事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務局：原子力発電本部(原子力防災G)
訓練内容	シナリオ情報を含むため非開示
運営規模	シナリオ情報を含むため非開示

3 目標及び達成基準

(1) 目標設定の考え方

年度計画で設定した計6項目(重点実施項目：3項目、継続実施項目：3項目)に対して年度計画の実施内容を踏まえ設定する。

なお、重点実施項目については、昨年度訓練での課題を踏まえて設定することで、改善状況の確認をあわせて実施する。

(2) 目標及び達成基準

○ 重点実施項目

シナリオ情報を含むため非開示

○ 継続実施項目

シナリオ情報を含むため非開示

4 訓練シナリオ (調整中)

時刻 (予定)	訓練概要	支援組織等との連携	達成基準 関連
シナリオ情報を含むため非開示			

訓練場所

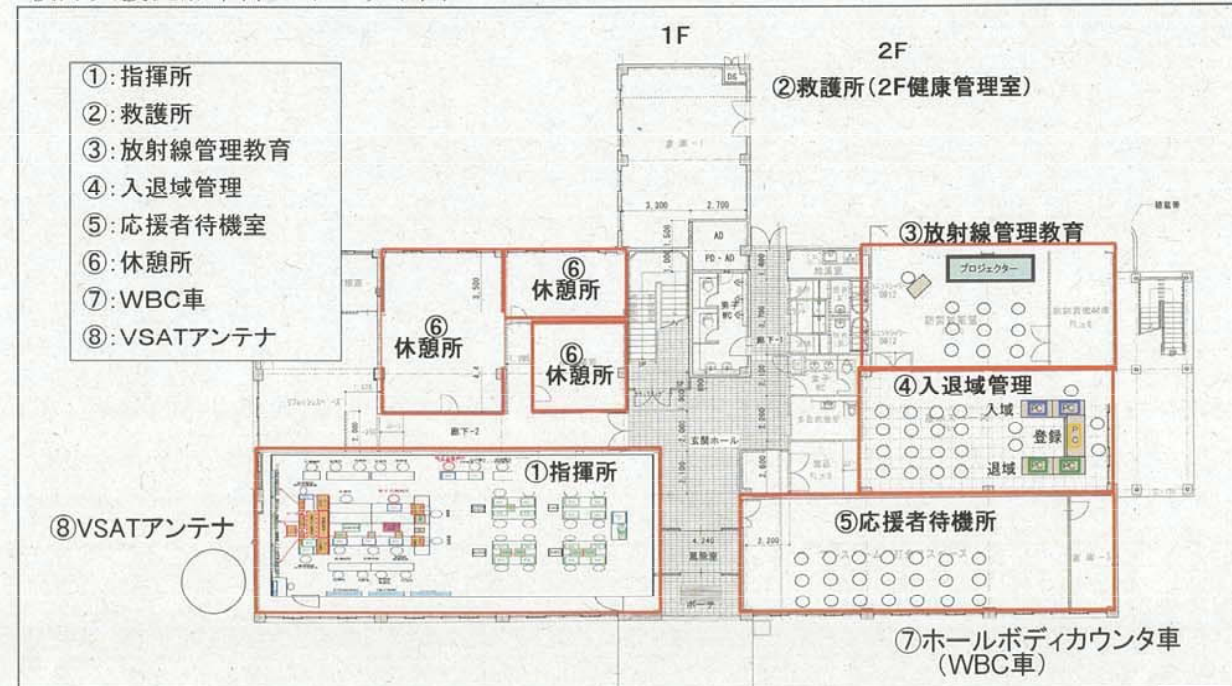


項目	仕様
所在地	佐賀県唐津市 二夕子三丁目 213番
広さ	面積 約225,000m ²
方位、距離	南東 約12km

後方支援拠点全体図



後方支援拠点本部レイアウト図



上

【添付4】

(案) 【訓練評価チェックシート】後方支援拠点設置運営訓練_2023年度玄海LSB訓練

[後方支援拠点 (1/8)]

期待事項		達成可否	良好事例・気づき事項
時期	実施者		
① 設置準備段階		シナリオ情報を含むため非開示	

期待事項		達成可否	良好事例・気づき事項
時期	実施者		
② 出動段階		シナリオ情報を含むため非開示	

期待事項		達成可否	良好事例・気づき事項
時期	実施者		
③ 設 営 段 階		シナリオ情報を含むため非開示	

期待事項		達成可否	良好事例・気づき事項
時期	実施者		
④ 運営 段階		シナリオ情報を含むため非開示	

期待事項		達成可否	良好事例・気づき事項
時期	実施者		
④ 運営段階		シナリオ情報を含むため非開示	

期待事項			達成可否	良好事例・気づき事項
時期	実施者	内容		
④ 運営 段階		シナリオ情報を含むため非開示		

期待事項			達成可否	良好事例・気づき事項
時期	実施者	内容		
④ 運営 段階		シナリオ情報を含むため非開示		

期待事項			達成可否	良好事例・気づき事項
時期	実施者	内容		
④ 運営段階 (支援組織との連携)		シナリオ情報を含むため非開示		
⑤ 移動・解散 ・増設段階				